

# 福岡県居住者の生活意識に関する調査 結果報告書

2011年5月  
株式会社ジーコム 生活行動研究所

## 1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」に対するインターネット調査

## 2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

## 3. 調査時期

平成23年4月22日(金)～4月28日(木)

## 4. 調査規模

500サンプル

### 【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	250	50.0
女性	250	50.0
全体	500	100.0

■年代	件数	構成比(%)
20代	100	20.0
30代	100	20.0
40代	100	20.0
50代	100	20.0
60代以上	100	20.0
全体	500	100.0

■職業	件数	構成比(%)
会社員	164	32.8
公務員	14	2.8
団体職員・病院等勤務	8	1.6
会社役員	6	1.2
商工自営	31	6.2
農林漁業	-	-
自営手伝い	1	0.2
医師・弁護士・税理士等	6	1.2
学生	17	3.4
パート・アルバイト	80	16.0
主婦専業	111	22.2
無職	45	9.0
その他	17	3.4
全体	500	100.0

■未婚	件数	構成比(%)
未婚	137	27.4
既婚	363	72.6
全体	500	100.0

■居住地	件数	構成比(%)
福岡都市圏	370	74.0
その他福岡県内	130	26.0
全体	500	100.0

### 【報告書の見方】

- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

## 暮らし向き判断指数は、東日本大震災後も引き続き回復傾向にある。

1年前と比べて暮らし向きが「良くなった」「どちらかというとも良くなった」と回答した割合から、「悪くなった」「どちらかというとも悪くなった」と回答した割合を差し引いた“暮らし向き判断指数”は-8.6ポイントである。

弊社ではこの“暮らし向き判断指数”を定期的に調査しているが、リーマンショック直後の2008年12月以降は回復傾向にあり、東日本大震災後もこの傾向は続いている。

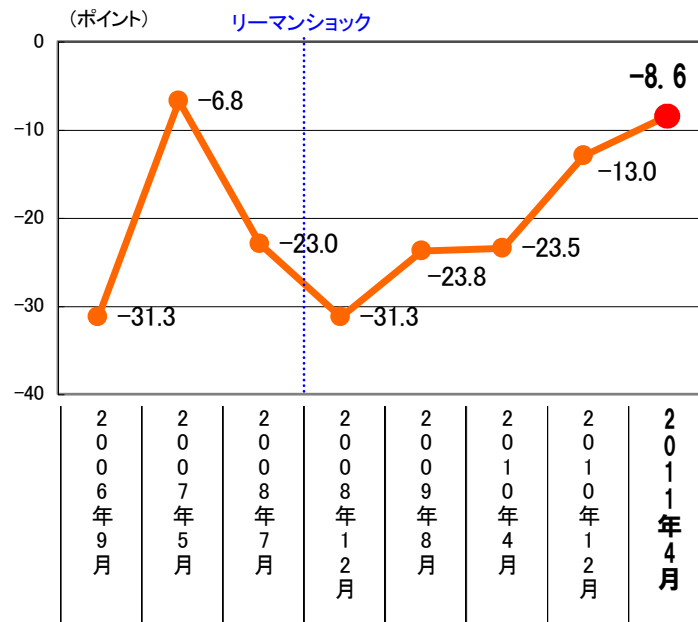
- ・性別で見ると、女性は男性に比べて暮らし向き判断指数の値が高く、プラスになっている。
- ・年代別では、40代以上で暮らし向き判断指数のマイナス幅が大きい。一方、20代は暮らし向き判断指数の値が最も高く、プラスになっている。

◆1年前と比べた暮らし向きの変化【単一回答】

	調査数	良くなった	どちらかというとも良くなった	どちらともいえない	どちらかというとも悪くなった	悪くなった	【%】		暮らし向き判断指数	
							肯定層	否定層		
全体	500	7.6	14.0	48.2	21.8	8.4	21.6	30.2	-8.6	
性別	男性	250	6.4	9.6	47.2	23.2	13.6	16.0	36.8	-20.8
	女性	250	8.8	18.4	49.2	20.4	3.2	27.2	23.6	3.6
年代別	20代	100	14.0	18.0	44.0	20.0	4.0	32.0	24.0	8.0
	30代	100	9.0	18.0	41.0	25.0	7.0	27.0	32.0	-5.0
	40代	100	8.0	13.0	39.0	26.0	14.0	21.0	40.0	-19.0
	50代	100	4.0	12.0	53.0	19.0	12.0	16.0	31.0	-15.0
	60代以上	100	3.0	9.0	64.0	19.0	5.0	12.0	24.0	-12.0

\* 肯定層: 「良くなった」+「どちらかというとも良くなった」  
 否定層: 「悪くなった」+「どちらかというとも悪くなった」  
 暮らし向き判断指数: 肯定率-否定率

◆暮らし向き判断指数の推移

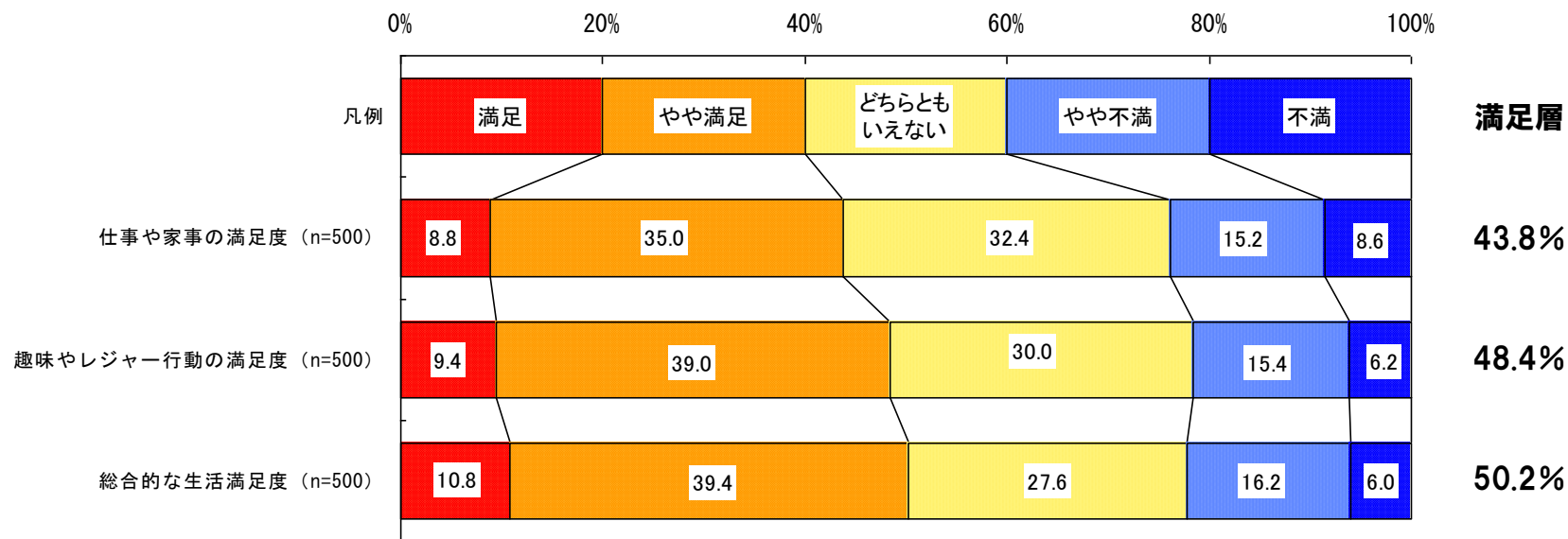


日常生活における総合的な満足度は約50%。女性や60代以上で満足層の割合が高い。

日常生活における満足度について「満足」と「やや満足」を合わせた満足層の割合を見ると、「仕事や家事」43.8%、「趣味やレジャー行動」48.4%、「総合的な生活満足度」50.2%である。

- ・性別で見ると、女性は男性に比べて「仕事や家事」と「総合的な生活満足度」において満足層の割合が高い。
- ・年代別では、60代以上は他の年代に比べて「趣味やレジャー行動」と「総合的な生活満足度」で満足層の割合が高く、7割近くに及んでいる。

◆生活満足度【それぞれ単一回答】



\* 満足層：「満足」+「やや満足」

## 2. 生活満足度

### ◆仕事や家事の満足度【単一回答】

		調査数	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	【%】	
								満足層	不満層
全体		500	8.8	35.0	32.4	15.2	8.6	43.8	23.8
性別	男性	250	8.0	27.6	35.6	16.0	12.8	35.6	28.8
	女性	250	9.6	42.4	29.2	14.4	4.4	52.0	18.8
年代別	20代	100	7.0	33.0	30.0	22.0	8.0	40.0	30.0
	30代	100	9.0	35.0	29.0	16.0	11.0	44.0	27.0
	40代	100	7.0	38.0	28.0	15.0	12.0	45.0	27.0
	50代	100	9.0	34.0	30.0	17.0	10.0	43.0	27.0
	60代以上	100	12.0	35.0	45.0	6.0	2.0	47.0	8.0

### ◆趣味やレジャー行動の満足度【単一回答】

		調査数	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	【%】	
								満足層	不満層
全体		500	9.4	39.0	30.0	15.4	6.2	48.4	21.6
性別	男性	250	8.0	36.4	34.8	13.2	7.6	44.4	20.8
	女性	250	10.8	41.6	25.2	17.6	4.8	52.4	22.4
年代別	20代	100	9.0	40.0	35.0	10.0	6.0	49.0	16.0
	30代	100	8.0	32.0	31.0	24.0	5.0	40.0	29.0
	40代	100	9.0	37.0	26.0	16.0	12.0	46.0	28.0
	50代	100	7.0	33.0	35.0	20.0	5.0	40.0	25.0
	60代以上	100	14.0	53.0	23.0	7.0	3.0	67.0	10.0

### ◆総合的な生活満足度【単一回答】

		調査数	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	【%】	
								満足層	不満層
全体		500	10.8	39.4	27.6	16.2	6.0	50.2	22.2
性別	男性	250	8.8	32.8	32.0	17.6	8.8	41.6	26.4
	女性	250	12.8	46.0	23.2	14.8	3.2	58.8	18.0
年代別	20代	100	11.0	34.0	36.0	12.0	7.0	45.0	19.0
	30代	100	12.0	34.0	28.0	21.0	5.0	46.0	26.0
	40代	100	11.0	35.0	30.0	14.0	10.0	46.0	24.0
	50代	100	8.0	38.0	22.0	26.0	6.0	46.0	32.0
	60代以上	100	12.0	56.0	22.0	8.0	2.0	68.0	10.0

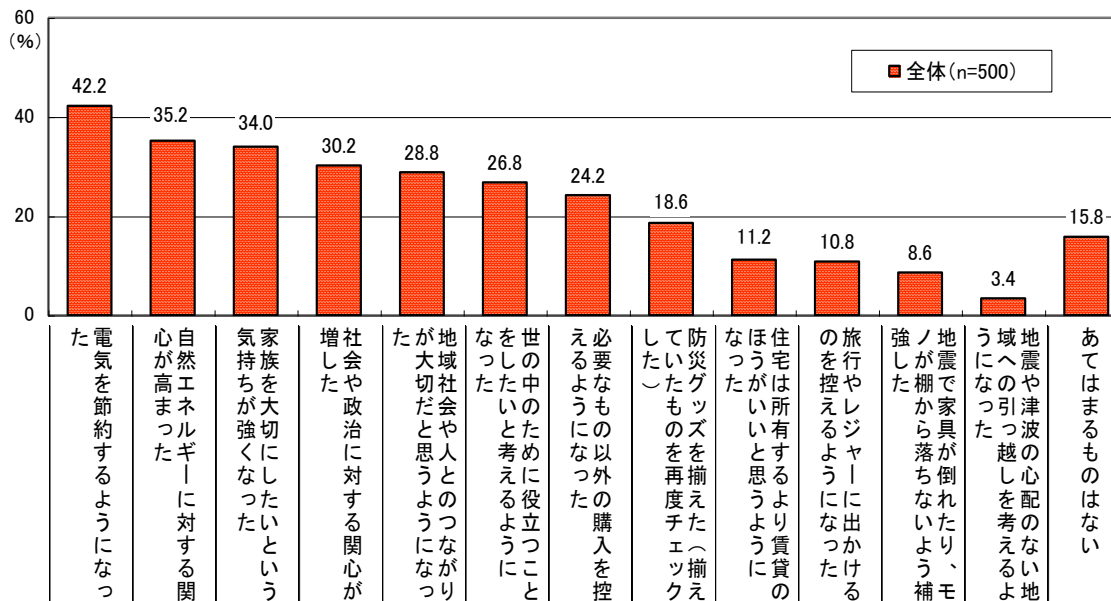
\* 満足層: 「満足」+「やや満足」  
 不満層: 「不満」+「やや不満」

#### 震災による意識・行動の変化は「節電」「自然エネルギーへの関心増加」「家族を大切にしたい気持ちの高まり」がトップ3。

東日本大震災による意識や行動の変化は、「電気を節約するようになった」の割合が42.2%で最も高く、次いで「自然エネルギーに対する関心が高まった」35.2%、「家族を大切にしたいという気持ちが強くなった」34.0%、「社会や政治に対する関心が増した」30.2%、「地域社会や人とのつながりが大切だと思うようになった」28.8%の順である。

- ・性別で見ると、ほとんどの項目で女性は男性に比べて回答率が高く、特に「電気を節約するようになった」「自然エネルギーに対する関心が高まった」「家族を大切にしたいという気持ちが強くなった」などではその差が大きくなっている。
- ・年代別では、40代以下は50代以上に比べて「家族を大切にしたいという気持ちが強くなった」の割合が高くなっている。また、40代は「世の中のために役立つことをしたいと考えようになった」、60代以上は「電気を節約するようになった」「社会や政治に対する関心が増した」の割合が、それぞれ他の年代に比べて高くなっている。

◆東日本大震災による意識・行動の変化【複数回答】



### 3. 東日本大震災による意識・行動の変化

◆東日本大震災による意識・行動の変化【複数回答】

	調査数	電気を節約するようになった	自然エネルギーが高まった	家族を大切にしたいという気持ちが強くなった	社会や政治に対する関心が増した	地域社会や人とのつながりが大切だと思うようになった	世の中のために役立つことをしたいと考えるようになった	必要なもの以外の購入を控えるようになった	防災グッズを再度チェックした(いたものを再度チェックした)	住宅は所有するより賃貸のほうがいいと思うようになった	旅行やレジャーに出かけるのを控えるようになった	地震で家具が倒れたり、モノが棚から落ちないよう補強した	地震や津波の心配のない地域への引っ越しを考えるようになった	あてはまるものはない	
全体	500	42.2	35.2	34.0	30.2	28.8	26.8	24.2	18.6	11.2	10.8	8.6	3.4	15.8	
性別	男性	250	30.4	28.8	24.4	29.2	23.6	22.0	18.4	13.2	10.4	10.0	6.0	3.6	24.0
	女性	250	54.0	41.6	43.6	31.2	34.0	31.6	30.0	24.0	12.0	11.6	11.2	3.2	7.6
年代別	20代	100	33.0	26.0	40.0	27.0	21.0	26.0	20.0	16.0	9.0	9.0	9.0	6.0	14.0
	30代	100	37.0	34.0	39.0	28.0	29.0	25.0	24.0	20.0	15.0	4.0	9.0	3.0	13.0
	40代	100	48.0	42.0	40.0	25.0	33.0	38.0	33.0	21.0	12.0	19.0	9.0	3.0	16.0
	50代	100	40.0	33.0	25.0	30.0	26.0	21.0	23.0	12.0	7.0	9.0	4.0	3.0	25.0
	60代以上	100	53.0	41.0	26.0	41.0	35.0	24.0	21.0	24.0	13.0	13.0	12.0	2.0	11.0

発行元：株式会社ジーコム 生活行動研究所

福岡市博多区古門戸町2番4号 KSコモンドビル4F

TEL092-283-2085

FAX092-262-6110

URL：<http://www.gcom-net.co.jp/>

E-mail：[info@gcom-net.co.jp](mailto:info@gcom-net.co.jp)